

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892200072		
法人名	有限会社 エスエス住建		
事業所名	グループホームこもれ陽の家	ユニット名(
所在地	茨城県鹿嶋市和941-12		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 12 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892200072-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にあり、窓から四季を感じられる環境で生活されている。敷地隣には、自社の畑があり、旬の野菜を採りたてで食事に提供している。また、利用者様に食事を楽しんで頂けるよう希望をメニューに取り込み、刺身・寿司・鰻等も召し上がっていただいている。「笑顔でいきいき」した生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は林の木々や畑に囲まれた自然豊かな場所に立地し、四季折々の風景を感じながらゆったり生活できる環境にある。コロナ感染症対策で外出を自粛していたが、公用車で初日の出や桜見学など外出支援をして利用者の楽しみになっている。施設長と職員は理念で掲げている「笑顔でいきいき」を念頭に置きながら、笑顔で利用者へ接し、生き生きとした生活が送れるよう支援をしている。事業所隣にある広い畑では様々な野菜を作り、食材にして利用者の希望する献立を作るとともに、刺身や寿司を近所のお店から配達して貰うなどして利用者の楽しみになっている。月1回の協力医療機関からの往診や24時間対応の医療サポート体制、事業所の看護師と協力医療機関との連携が構築しており、家族等や利用者にとって安心して生活ができるよう支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、「笑顔でいきいき」と生活出来るように支援している。職員も笑顔でいきいきと就労している。	理念を玄関に掲示し、職員は毎日ミーティング時に唱和し確認をして、利用者の笑顔を引き出そうと支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	清掃ボランティアの方が、利用者様と交流を持ってくださったり、散歩中地域住民の方と会話の機会を持つ等、交流はできている。地域の福祉講座に参加し、認知症ケアの方法を話す機会があった。	近隣住民が散歩時に立ち寄り交流している。公民館で地域住民に対して、認知症の説明会を開催している。事業所より季節の野菜等をおすそ分けをしたり、近隣住民が自宅の庭を開放しての花見を行うなど、親密な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策の為、屋外からではあるが、施設見学して頂いたり、介護相談等の対応もを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活状況や行事等の報告を行い、推進員からの意見をカンファレンスで検討し、より良いサービスになるよう取り組んでいる。	家族等の代表や市職員、民生委員等が参加して定期的開催している。避難訓練に委員が参加予定であったがコロナ禍で延期になり今後行う予定となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護長寿課と利用者様の状況報告(ヒアリングシート)を定期的におこなっている。また、推進会議等で施設状況を伝える。	担当者からメールで情報を得るほか相談をしている。市主催の福祉関連の研修会やケアマネ連絡協議会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、同グループの職員と合同で、身体拘束対策委員会・研修を行っている。内容をカンファレンス等で報告し、全スタッフが共有し取り組んでいる。	身体拘束排除に関する指針を作成し、系列のグループホームと合同で委員会や研修を開催している。接遇やアンガーマネジメントの研修を行うほか、スピーチロックやフィジカルロック等についても都度話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様が望んでいない「不適切なケア」が虐待になる事を理解し、全職員が虐待防止を念頭に置いたケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「利用者様の為になる」という介護職員の立場からのケアではなく、利用者様の尊厳を考慮し、気持ちを尊重したケアを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・ご家族が不安か疑問があるかを伺い、納得・理解して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の意見や要望は、推進会議で報告したり、カンファレンス等で検討し、運営に活かしている。	面会時や電話で家族等から意見や要望を聞いているほか玄関に意見箱を設置している。家族会はあるが、コロナ禍で中止しており収まったら再開予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、随時管理者や代表者に話す環境は整っている。また、月に1回カンファレンスを行い、出た意見をグループ内のリーダー会議で報告し、運営に反映させている。	日ごろから話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、面談を行い職員から意見や要望を聞くよう努めている。夏祭りや日々のレクリエーションについての意見を聞き反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働きやすい環境を整備し、従業員の意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の合同研修会や、オンライン研修等の機会を設ける等、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のオンライン研修会や、福祉用具事業所との合同研修会等に参加し、様々な情報の収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちに寄り添い、少しずつ安心して頂けるようコミュニケーションの時間を大切にしながらケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と電話やメール等を通して、いつでも連絡できる環境を整えてる。遠方のご家族でもリモート面会でコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の言動に目を向け、利用者様の気持ちを尊重したうえで、どんなケアを望んでいるかを見極め、サービスを支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の「出来る事」に目を向け、洗濯や後片付け等を行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に写真を送る等して、元気に生活されていることを報告している。利用者様も面会や電話で話す事を楽しみにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所さんや、友人とハガキや手紙でやり取りする等、今までの関係が途切れないよう支援している。	友人や知人、馴染みの理美容師が来所したり、葉書や手紙作成を支援している。リモート面会等を支援している。コロナ禍前は家族等と外出に出かけていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自分の気持ちを伝えられるよう、時にはスタッフが間に入って利用者同士がコミュニケーションが取れるようよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後在宅生活で不安や困りごとがあった場合には、いつでも相談を受けられる体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、本人の思いに耳を傾けている。コミュニケーションが難しい方とは、本人の言葉や動きから、利用者様の気持ちをくみ取るようにしている。	日々の支援の中で利用者から思いや希望等を聞いている。重要な事項については申し送りノートに記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力して頂き、これまでの暮らしの把握に努め、今までのように馴染みのある生活に近づけるような環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、本人にも聞き取りしながら、身体の状態を把握している。職員同士も、いつもと違う変化に気づいた時は、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプランをモニタリングし、再アセスメントしたうえで、ケアプランを作成している。状況が変化した時は、カンファレンスで話し合い、状態にあったケアプランを作成し、実践している。	家族等から要望を聞き、会議で話し合って計画を作成している。24時間シートや私の気持ちシートを活用している。半年ごとにモニタリングを行い見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別計画を細かく記入し、ケアを実践したうえで評価している。職員間で情報を共有しながら、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせて、必要な物を用意するようにしている。買い物や散髪等も本人の希望に沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の方々との交流は出来なかったが、犬の散歩中声をかけて下さったり、地域住民の方が、自宅の庭を提供して下さい、桜の花見をさせて頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、今まで通り受診できるよう支援体制を整えている。	契約時にかかりつけ医への継続受診を説明している。協力医療機関の医師による訪問診療が毎月あり、事業所の看護師と相談する体制ができている。24時間対応の医療サポート体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や本人の訴え、職員が気づいた事は、その都度看護師に伝えている。必要に応じて受診・往診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは、密に連携をとっており、入退院時の連絡調整はスムーズに行えている。また、ソーシャルワーカーを通じて入院時の状況を把握し、退院後スムーズに生活できるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアも行っている施設である事は説明している。本人・家族と話し合い、医療と連携をとりながら、希望に沿った最期を迎えられるような体制をとっている。	看取りを行う事業所であることを契約時に説明し「延命処置に関する指示同意書」「看取り介護についての同意書」を得ている。職員が定期的な研修を受けるまでに至っていない。	看取りをする事業所であり、定期的な研修会の実施を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、急変・事故発生時のマニュアルを周知しており、発生時速やかに対応できるような体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、避難方法等確認している。災害時は、協力施設への対応をお願いしている。	定期的な避難訓練を行っているが、夜間想定訓練を行うまでに至っていない。災害に備えた備蓄品を食品庫に保管し定期的に点検を行っている。	夜間想定や地震に対する避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような言葉かけをしている。プライバシーに配慮し、必要に応じて、居室にて対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに気をつけて支援をしている。人権尊重や守秘義務について年1回内部研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、利用者の希望を確認しながら、ケアに当たっている。本人の希望を実現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせて支援している。本人の希望を取り入れたレクリエーションや、散歩等への希望も支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力して頂き、愛用している化粧水やクリームを持ってきていただいている。本人の希望を踏まえた上で、季節に合わせた洋服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在感染症対策の為、以前行っていた外食会は中止しているが、利用者様の食べたいものを聞いて買ってきたり、献立に取り入れている。食事の後片付けも出来る範囲で手伝って頂いている。	自家菜園では季節に応じた様々の野菜が栽培されるとともに鶏が飼育されている。新鮮な野菜と卵が提供され、美味しいと好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、食事量・水分量を記録し、体調の変化等ないか、留意している。食形態を工夫し、一人一人にあった形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをおこなっている。適時に、口腔内の観察を行い、口腔内の清潔が保持できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、一人一人のリズムに合わせた、支援をしている。おむつを使用している方でも、1日に2回はトイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりにあったタイミングで声かけして全員トイレで排泄支援をしている。野菜や乳製品を摂り、身体を動かして便秘予防をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、自然排便で出るよう牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルト・食物繊維の多い食事を提供している。身体を動かすなどして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望をなるべく実現しようと努めているが、全ては実行出来ていない。希望に添えられるよう努力している。菖蒲湯やゆず湯など行事に取り入れ楽しんで頂いている。	基本一日おきに入浴しているができるだけ利用者の希望に沿って支援している。それぞれの自分の好きなシャンプーやせっけんを使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じ楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣に合わせて、照明や温度調節、寝具の工夫をしている。夜間眠れなかったり、不安になってしまう方には、話を傾聴して、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、常に見られる状態にしている。内服の変更時は申し送り等で伝えるだけでなく、ノートを活用している。本人の変化は記録に残したりして、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションから、一人一人の嗜好や楽しみを見つけ楽しく過ごせるよう工夫している。洗濯干しや洗濯畳みをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で地域の方々との交流は出来なかったが、人手が少ない時間帯に神宮参拝やドライブに出かけている。	事業所の前面にある自家菜園では、様々な野菜が栽培され、手入れや収穫を通じて、四季折々の変化が身近に感じられる環境がある。コロナ過以前は、近隣に買い物等に出かけていた。状況を見て再開を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方は、財布を持って頂いている。今年もコロナ対策で外出が難しい為、利用者様の代わりにご家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人の方からの電話でお話されたり、利用者様の希望で電話をかけたたりして話されている。はがきや手紙でのやり取りをされている方もおり、友人や家族との交流をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスには季節の花を置き、畑では、季節の野菜を作り見渡せるようになっている。天窓から、自然の光を取り入れたり、窓を開けると鳥の鳴き声が聞こえ自然を感じることができる。	玄関に至るアプローチには、季節の花が置かれ、訪問者を和ませている。温度湿度管理がなされ、天窓を通じた光で明るい共用空間は快適な場所になっている。壁面には、利用者と職員で作成した季節に応じた作品や行事の写真等が掲示されている。天気の良い日にはテラスではお茶会楽しんでいる。廊下にはソファが設置され、利用者同士の語りの場、一人で寛げる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居室・テラス・ソファ等、好きな場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、愛用していたものを持参して頂き、居心地よく安心して過ごせるようにしている。居室入口の名札は、本人の趣味や大切なものを目印にしている。	居室にはエアコンやベッド、洗面台等が備え付けられている。自宅で使っていた布団や家具など、馴染みのある品物を持ちこんで、好きな場所に配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは、自分でして頂けるよう声掛けしている。洗濯物を干すハンガーの高さを調整したり、安全に縫物できる工夫をしたりして、安全な環境づくりを心がけている。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

グループホームこもれ陽の家

作成日 令和 5 年 12 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	看取りをする事業所である為、定期的に看取りの研修会を実施する事が望ましい	年4回に看取りケアの研修会を実施する	看護師を中心に、3ヶ月に1回施設内研修を行う(1月、4月、7月、10月)	3ヶ月
2	13	夜間想定や地震に対する避難訓練も行った方が良い	夜間帯・非常災害時を想定した訓練を実施する	夜間を想定し、職員一人での避難誘導の訓練を実施する。また、地震や非常災害時を想定した訓練も実施する。	4ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。